

かまはし

発行 地域力推進蒲田西地区委員会
編集 地域情報紙編集委員会

第73号

わがまちの顔

菊花展示会で東京都知事賞

かみはら ためじ

神原 為治 さん



受賞した神原さん

の部に分けて展示され、それぞれに審査基準も明確で、優等首席、優等二席、優等三席、一等一席・二席……と評価・表彰されています。

今回、受賞した神原さんは、優等首席が4回目、今までに文部科学大臣賞・本門寺賞・大田区长賞も頂いている。その他の賞については資料が沢山あって、数えきれないそうです。

菊作りの一番の難しさについてお伺いすると、成長過程の時期に応じて難しさがあるが蕾を咲かせることかな？ 通常3つの蕾を用意するが、本蕾に花を咲かせる技量が一番と思う。また、天敵は台風で全ての鉢を室内に移動するの場所探しが大変。

神原さんは昭和9年の生まれ、高校卒業後集団で上京し、「聚楽」の調理師として順調に定年を迎えました。そのころ、たまたま訪れた本門寺でこの菊花展示会に出会い、見事な大輪に胸うたれ、菊作

りに挑戦してみようと思いついたのだそうです。良き先輩にも恵まれ、手ほどきを受けているうちに一段と熱が入るようになったとはご本人の弁。

やがて大田教育支援の会の一員となり、学校の授業では学べない生物の成長過程を菊作りのノウハウを通して指導されています。多摩川小学校・相生小学校・女塚小学校の児童にも教えていました。現在は「こらば大森」を中心に活動されています。

住まいは西蒲田三丁目、奥様と娘さんとの3人暮らし。近隣からは「自転車おじさん」で知られており、放置自転車や防犯灯・空き1家対策など安全と防犯にも気配りいただいております。



東京都知事賞受賞作品

(取材 森・瀬川委員)

神原為治さん(85歳)——昨年の東京菊友会第56回菊花展示会「盆栽柳作り 辻の柳」部において「優等首席」と認められ、東京都知事賞に輝きました。
東京菊友会は、総裁が池上本門寺の菅野日彰貫主、名誉会長が松原大田区长という格式高い菊作りの会で、神原さんもその理事の一人。昭和38年から毎年秋に本門寺境内で展示会が開かれ、大田区を中心に約90名の会員が妍を競っています。春の桜、秋は菊を楽しみにしている方も多いのではないのでしょうか。
盆栽、盆栽、懸崖、ダルマ作り、福助作り一本立て、ジャンボ福助

アミガサ事件と多摩川築堤運動

多摩川両岸物語③

(前回…洪水による被災が相次ぐ神奈川県側の住民が、神奈川県知事に直訴した後で就任した有吉知事は新堤築造工事を行います。)

対岸荏原郡の反対運動

ところで、対岸の荏原郡の沿岸各村は、御幸村の新堤築造にあたり、旧慣を破って築堤することは左岸東京府側の堤防を相対的に弱めることになる」として一斉に異議を唱えました。東京府と内務省に対し、御幸村の工事着工後に反対陳情を行い、四月二六日には下丸子の蓮光院で大字大会を開いて、全村民をあげての反対運動に発展します。

さらに五月一二日には、蒲田の妙安寺で荏原郡民大会が開催され、改めて堤防撤廃の確認がなされるとともに、約二〇〇名が内務省に参集して、出願陳情を行いました。

両府県の連帯

こうした対岸荏原郡の大反対陳情がありました。内務省の調停により、右岸の郡道嵩上げ堤防は、左岸より二尺七寸乃至三尺一寸(約〇・八二〜〇・九四m)低くするということで決着しました。

一九一六年(大正五)末には東京・神奈川県両府県の議会関係者による「多摩川治水期成同盟会」が成立し、両府県が連帯する運動が初めて展開されることとなりました。さらに第一期河川の改修工事の完成を待たずに、国庫補助の方針が打ち出されたことで、一九一八年(大正七)から工事が始まりました。

多摩川改修工事

多摩川下流域の改修工事は一九一八年から一九二五年(大正八〜一五)までの八年継続事業として起工しました。しかし、第一次世界大戦(一九一四〜一九一八)の影響による物価高騰や、一九二三年(大正一二)九月一日の関東大震災によつて工事予算の減額や工事の繰り延べが行われ、ようやく一九三四年(昭和九)、東京湾河口から二子橋の先(宇奈根)までの二二kmに及ぶ、現在ある近代堤防が竣工しました。

掘削、浚渫した土砂は七五二万三七三二平方m(東京ドーム六杯分)、水門建設三七か所、総工費は約一一〇〇万円に及びます。



羽田の赤煉瓦堤防(羽田二、三、六丁目の多摩川沿)

羽田の赤煉瓦堤防や南六郷二丁目(一九三一年(昭和六年))に六郷用水の排水門として建設された六郷水門、川崎区にある川崎河口水門などは、この工事に合わせて作られました。

高さ四mにも及ぶ、堂々たる「多摩川治水記念碑」(一九三六年建立)が大田区田園調布一丁目、浅間神社下の六郷用水脇に多摩川を見下ろすように建っています。

残念ながら、刻んである功労者の名前はすべて内務省の役人ばかりで、役人以外で築堤運動に尽力した方々の名前は一つもありません。まったくの官尊民卑碑であるように思われます。



六郷水門(南六郷二丁目 35 番)写真左は多摩川側から、写真右は側面から見たもの(人がいるので大きさがわかる)



多摩川治水記念碑(大田区田園調布一丁目、浅間神社下の六郷用水脇)昭和11年建立



川崎河口水門(川崎区港町66番地)昭和3年完成



川崎河口水門の頭頂部には籠に盛られた当時川崎の名産品だった梨・葡萄・桃をあしらった飾りがある

その後、日野橋までの改修工事が進められ、氾濫は激減しましたが、それでも水害は起こっています。一九四七年(昭和二二)のキヤサリーン台風、一九八二年(昭和五七)の台風一〇号・一八号、一九九九年(平成一一)の熱帯性低気圧豪雨などがあげられますが、なんといつても記憶に焼き付いているのは一九七四年(昭和四九)九月の狛江水害でしょう。台風一六号によって狛江側の堤防が決壊し、民家一九戸が流失、一二七〇戸が浸水し一二三ヘクタールの耕地が冠水しました。(TVドラマ「岸辺のアルバム」はこの水害から着想されました。)

この堤防決壊の一因として川崎側の二ヶ領用水の取水堰があるのですが、それについては「多摩川両岸物語⑤の『小河内ダム建設と二ヶ領用水』で触れます。

一九九〇年からは、河口から日野橋までの区間を、スーパー堤防(高規格堤防)にする整備事業が進められていますがおそらく、一〇〇年ほどかかるだろうと思われまます。そんなものが果たして必要なのだろうかとの疑問の声もあがっています。大田区ではわずかに下丸子のガス橋周辺と多摩川二丁目の都民タワーの部分だけがスーパー堤防となっています。

「川崎のまちと水」

ここ一〇〇年余りの多摩川流域の住民の利害の対立と、連帯による長年の夢の実現の歴史を概観してきました。多摩川下流域に住む私たちが、現在、水害の心配をせずに暮らしているのは、このような歴史があつてのことであると思ひます。

また、官僚は自己保身と「古くからの慣行」に縛られて「住民の願い」を叶えるという姿勢には乏しくなつてしまふ面があります。

河川法違反と内務省の省令違反で言責処分を受けながら、政治生命をかけて、住民の信頼に応えたい有吉知事は、例外中の例外といえるでしょう。

はじめはお互いの利害にとらわれ、対岸の堤防建設に反対していた流域住民も、連帯して闘うことの有効性に目覚め、堤防建設の悲願を実現するために協調し、運動を広げていきました。

私たちは、先人の、このような曲折の歴史に学び、未来の子どもたちに伝えていくことが大切だと思ひます。

多摩川流域の歴史を通して私達が学べることは、非常に大きいのではないのでしょうか。

(取材 多田・大良委員)

ご存知ですか？

JR「蒲田トレーニングセンター」



写真 A

志茂田駅……この写真 A を見て、え、なにこれ？ と、皆さん首をかしげるのではないのでしょうか。

実はこれ、去る七月一日、大田運輸区（旧称、蒲田電車区）敷地内にオープンした JR 東日本東京支社の訓練施設「総合訓練センター 蒲田トレーニングセンター」の「駅」なのです。センターの敷地面積 3500 平方 m。

訓練線 3 線（190 m × 2 線、80 m × 1 線）が新しく引かれ、訓練駅として、10 m のホーム 2 面をもつ「大田駅」と、ホーム 1 面

の「志茂田駅」、さらに延べ床面積 279 平方 m の実習棟が設置されました。

また、導入されたミニ車両（写真 B）2 両——この玩具のような謎めいた存在に、何だろう？ 私は早くから気づいていました。それが訓練車だったとは！ 京浜東北線の電車をイメージさせる外観、車体幅と扉の大きさは実車にほぼ同じ、長さ 5 m。動力車操縦無免許でも運転でき、充電式バッテリーで走る。連結・切離しのための自動連結器も備えています。

もちろん信号設備・踏切・架線なども整備され、訓練線には「荏原（えばら）線」の名称まであるそうです。

JR 東日本東京支社では、これらの設備を通じて、駅社員を対象に、ホーム上での基本動作や乗客の救済、列車見張員、落し物拾得手順の訓練など、より実践的に、異常時対応能力や安全に関する知識・技能を育成することを目指しています。

松本清張の『砂の器』で「操車



写真 B

場」として登場してから 60 年、この場所も変容していきます。駅近くの「トリスバー」ともども、昭和は遠くなりにけり……。

（取材 写真とも山口委員）

令和元年度

『かまにし 17』編集委員

石渡咲子・國廣恒二（西蒲田一丁目町会）／瀬川二三・森俊夫（西蒲田二・三丁目自治会）／屋代絃征・西原教子（西蒲田四丁目町会）／池田きみ子（西蒲田女塚町会）／伊藤多佳子・深井英明（西蒲田六丁目自治会）／柳通勝磨（蒲田西口町会）／飯嶋宏之・下山恵美子（西蒲田七丁目御園町会）／横山方子（西蒲田八丁目町会）／多田鉄男（御園自治会）／伊藤孝一・山口博美（新蒲田一丁目自治会）

／山崎修弘（東矢口一丁目町会）／佐藤悦子（小林自治会）／高橋晴美・近藤邦子（安方北町会）／大良美臣・岡和雄（安方南町会）／原哲夫・山田勉（多摩川二丁目町会）／横山智恵子・伴野正弘（道塚自治会）／荒浪明子・上管章仁（蒲田西特別出張所）

かまにし 17 をお読みいただき、ありがとうございます。情報紙に対するご意見やご感想、または投稿などございましたら、お気軽に事務局までお寄せください。

事務局 蒲田西特別出張所
大田区西蒲田七一一一
電話 3732-478

蒲田西特別出張所管内

| | | |
|----|-----------|----------|
| 人口 | 男 | 32,423 人 |
| | 女 | 30,112 人 |
| | 計 | 62,535 人 |
| 世帯 | 35,819 世帯 | |

令和元年 8月1日現在